

2010年5月10日

## 祝上海万博開幕、ますます進む上海のインフラ整備

上海産業情報センター 横江 隆弘

いよいよ上海万博が開幕しました。

とりわけ、開幕式を彩った花火は今の中国の勢いを象徴するような、今までに見たことのない華やかで躍動感ある素晴らしいものでした。

開幕直後は予想よりもやや少ない参観者のようですが、人気パビリオンは1時間2時間待ちの行列をつくっている状態です。これからさらに賑やかになることは間違いないことと思います。その中で今回は、万博の開催とともに進む上海のインフラ整備の状況をご紹介します。

(上海万博の状況は、別添の「上海万博最新情報」も参考にして下さい。)

### 1 地下鉄総延長は世界一に

上海万博のためにとりわけ急ピッチで整備されてきたのが、地下鉄です。2010年4月20日現在で営業開始しているのが、11路線・266駅・総延長410キロメートルになりました。これは、ロンドンの408キロメートル、ニューヨークの370キロメートルを抜き、とうとう地下鉄の総延長世界一になりました。(因みに東京は、304キロメートルです。)上海の地下鉄一号線の創設が1995年で、わずか15年で世界一に躍り出たわけですから今更ながら大したものだと驚かざるにはられません。そして、現在も新線の建設、延伸工事が行われており、2012年には、総延長が500キロメートルを超えると予想されています。

この地下鉄整備により、現在は、上海万博会場付近にいくつかの新駅が創設され会場を訪れるのが非常に便利になっています。また、交通利便性向上により会場付近の住宅価格がすでに倍になっているところがあったり、万博後をにらんだ住宅開発の動きが活発に行われているとも聞きます。

さらに、地下鉄の整備で目を引くのが、二号線の延伸により、上海にある2つの空港、浦東国際空港と虹橋国際空港が一本の地下鉄でつながったことです。

### 2 進む虹橋地区の再開発

2010年4月に地下鉄2号線が浦東空港まで開通したことにより、虹橋空港を含めて、空港へのアクセスがさらに便利になりました。

その虹橋空港は、同年3月に第二ターミナルが完成して、その機能性及び利

便性がますます増しているところです。

そして、現在この虹橋空港の隣接地に「虹橋総合交通ターミナル」が建設中です。このターミナルは、空港のほか高速鉄道、在来線、地下鉄、長距離バス、リニアモーターカーそして高速道路などすべての機能が集中した交通の要所となる予定です。完成した場合には、総面積が26.26平方キロメートルになり、一日の利用者は48万人を見込んでいます。

計画の一端を具体的にみてみますと、まず鉄道については、北京～上海間1,368キロメートルを最高速度350k/hで結ぶ高速鉄道が2011年に開通の予定であります。また、上海～南京間を結ぶ高速鉄道は、今年の7月にも開通が予定されており、現在約3時間要しているところが、約1時間に短縮されることとなります。そして、リニアモーターカーについては、現在試験運営により浦東空港から地下鉄龍陽路駅まで約7分で運転されていますが、虹橋空港まで延長する計画もあるようです。実現すれば本当にわずかな時間で2つの国際空港が結ばれることとなります。

地下鉄については、現在2号線一本だけですが、5号線・10号線、13号線の乗り入れ計画があります。

高速道路、高架道路網の整備も同様にすすめられており、虹橋地区がまさに交通の要衝になります。



虹橋総合交通ターミナルの完成予想図と計画図(同HPから参照)

### 3 今後に向けて

この虹橋交通総合ターミナルの建設によって、交通、ビジネス、旅行、情報通信、物流及び不動産などの社会発展・経済などに大きな影響を及ぼすことはいうまでもありません。とりわけ市中心から離れていた周辺の長寧区、闵行区、青浦区、普陀区、嘉定区政府は、大いに期待していることと思いま

す。

このエリアの工業園区の再開発も盛んになっています。上海市内の工業園区は、最近ではコスト面で高すぎて折り合いがつかず、内陸へと向かう傾向がありましたが、ここに来てこれだけ物流に有利な条件が揃うと、少なからぬ企業が虹橋地区に進出を検討しているようです。昆山、蘇州あたりと比較して土地レンタルのコストが3～4割増しでも検討に値するという事なのでしょう。

上海万博は始まったばかりですが、もうすでに先の先を見越した動きが進みつつあります。上海産業情報センターでは今後もこれらの状況を注視していきたいと考えております。



リニアモーターカーの計画図（HPから参照）